*Mycoplasma hyorhinis*の関与を疑う豚の疣贅性心内膜炎の２症例

〇秦温子[1)]、箕輪泰[2)]

[1]長崎県県南保、[2]長崎県川棚食肉衛検

【はじめに】本邦では、 *Mycoplasma hyorhinis*（*M. hyorhinis*）が起因した豚の疣贅性心内膜炎はほとんど報告されていない。今回、管轄と畜場で、異なる農場の肥育豚２頭の疣贅性心内膜炎の大動脈弁の疣状物から*M. hyorhinis*が検出された２症例（症例１および2）について報告する。

【材料および方法】細菌学的検査は、疣状物および主要臓器を羊血液寒天培地で好気、嫌気培養した。疣状物のマイコプラズマ検査は、核酸精製試薬でDNAを抽出し、16S rRNAを標的とした*M. hyorhinis*と*Mycoplasma hyopneumoniae*（*M. hyopneumoniae*）のPCR検査を行った。病理学的検査は、疣状物および主要臓器について、HE染色および抗*M. hyorhinis*の免疫組織化学的検査（IHC）を行った。

【結果】2症例とも疣状物および主要臓器は菌分離陰性で、疣状物のPCR検査で*M. hyorhinis*が陽性、*M. hyopneumoniae*が陰性であった。HE染色では、２症例とも疣状物と大動脈弁で、多数の好中球、リンパ球およびマクロファージが集簇した化膿性壊死性病変が認められたほか、症例１の病変部では、核中央にクロマチンが細長く集合した活性化マクロファージ（Anitschkow細胞）が多数認められた。さらに、症例１では軽度の化膿性心筋炎、脾臓のリンパ濾胞の活性化、間質性腎炎、肝臓小葉間結合組織の軽度細胞浸潤、症例２では脾臓のリンパ濾胞の活性化が認められた。IHCでは、２症例とも疣病変部に一致して抗*M. hyorhinis*陽性であった。いっぽう、症例１のみ心臓、肝臓、腎臓および脾臓の血管と病変部のマクロファージの細胞質で抗*M. hyorhinis*陽性の所見が少数認められた。

【考察】通常のと畜検査でマイコプラズマ専用培地を用い検査されることはなく、本症例では、遺伝子検査およびIHCの結果、*M. hyorhinis*の感染による疣贅性心内膜炎が推察された。症例１の諸臓器では、少数ながら*M. hyorhinis*のIHC陽性反応が認められ、*M. hyorhinis*が諸臓器実質の病変形成に関与し全身性の感染症の原因となる可能性が示唆された。本症例をふまえ、疣状物の直接鏡検で菌体が認められず菌分離陰性の場合は、マイコプラズマの関与も考慮する必要があると考える。